

平成 27 年度 KCN 京都 放送番組審議会 議事録

1. 開催日時

平成 27 年 5 月 21 日（木）15:00～17:30

2. 開催場所

京都府木津川市兜台 6 丁目 6-4 薬膳レストランあわさい 2F 会議室

3. 出席者

会長 : 渡辺好章

副会長 : 山根林

委員 : 高木健次、大崎康弘、池井戸睦男、出栗美紀子、渡辺紀子（順不同・敬称略）

KCN 京都 : 小林千彰（代表取締役社長）、今里英之（常務取締役）、村瀬一美（取締役技術部長・企画部長）、淀和憲（営業部長）、中島修（技術部・企画部係長）

4. 報告

■ 協議事項

① 自主放送番組について

KCN 京都自主制作番組 My けいはんな「さよなら…鹿背山分校」（2014 年 4 月後半放送）、「巨椋池干拓～七十年の時を経て」（2014 年 9 月前半放送）の 2 作品について意見を伺った。

作品①：「さよなら…鹿背山分校」

- ・ 古い分校のようであり、地域には多数卒業された方が多数いると思われるが、地域の方々からは我々とはまた違った思いでこの番組を見られたのだろう。本作品の意図（視点）と出来上がった作品とはよくマッチしているのではないか。
- ・ 昔、その地域の人にとっては初等教育をどうしていくのかといった、その地域の自治の始まりがあったのだろう。学校が消える＝自治の歴史が蓋されてしまうといった物語と重ねる必要もあるのではないかと感じる。
- ・ 子供たちの話しから新しい学校へ転校することへの期待が感じられた。廃校の校舎が以後どうなったのかが伝えられていればよかった。
- ・ 子供たちの今、廃校の今を追って行ってほしい。
- ・ 分校の長い歴史についてももっと取り上げてよかったのではないか。
- ・ 作品は丁寧に作られており、記録としてはよい。地域の方々にとってこれから新しい街づくりをしていかなければならない時にどう考えていくのか表現されておらず、不安感が残る。

作品②：「巨椋池干拓～七十年の時を経て」

- ・ 事実を丁寧に伝え、番組が伝えたい結論は視聴者がそれぞれの感覚でどう感じるかだと思うので作品としては良くできているのではないか。
- ・ 今回の作品は丁寧に取材され作られているので大変よかった。
- ・ 地域の方々が干拓された後、どうなったのか紹介されていればもっと良かった。
- ・ 番組の切り口としていくつかあると思うが、治水の歴史の観点から見せると、過去にスケールも大きい治水事業の大きなドラマがあったことを演出してもらって面白かっただろう。

■ 報告事項

① 平成 27 年度自主制作番組企画について

平成 27 年度の KCN 京都ファミリーチャンネルの番組企画について説明を行なった。

② 番組基準に抵触する放送を行なった旨の報告について

番組供給事業者である㈱スペースシャワーネットワーク制作の番組において「アニメーション等の映像手法に関するガイドライン」に抵触する恐れのある映像手法が用いられており、この番組を当社で放送したことについて報告を行なった。また、本事象に対する当社対応として、番組供給事業者への注意喚起を行ない、自主制作における番組においては当社が定める放送基準に準拠するよう、制作担当者へ周知徹底を行なったことを報告した。

以上